

# 結

あなたは人間たちに吊るしあげられてしまいました。

「どうして、人間は食べもしないのに殺すのかな？」  
あなたは首をかしげます。

店主／アルヴァンの肉をおいしく食べることに、  
店主／アルヴァンの作った料理をおいしく食べることの違いが、  
あなたにはよくわかりません。

「おなかすいたなあ。こんな時に店主／アルヴァンがいれば  
おいしいものを作ってくれたのに」

そこまで思っ、あなたは店主／アルヴァンの肉の味を思い出します。  
おいしかったのに、もうなくなってしまいました。  
店主／アルヴァンの肉も、料理も、もうくちにすることはできません。

「ああ、そっか……。だからみんな、怒ってるのかあ」

あんなにおいしいものをひとり占めして、  
もう食べられなくしてしまったから。  
あなたはずっとひとりぼっちだったので、分け合うことを  
よくわかっていないなかったのだ。

そう結論付けて、あなたは納得と一抹の寂しさを抱えて  
人間たちに吊るされたのでした。

+++++

END-S-3：『納得のオオカミ』